

# 自民総裁選 私の注文

## 有識者に聞く

20日投開票の自民党総裁選は安倍晋三首相(党総裁)と石破茂元幹事長が討論会や演説会に臨み、それぞれの主張が鮮明になってきた。成果を強調する首相と対立軸を打ちだそうとする石破氏。3人の有識者に評価と注文を聞いた。(三木理恵子、竹内悠介) =3面参照

細谷雄一・慶大教授 総裁選は首相に比べて石破氏が勝ちにくい構造になっている。経済動向と支持率は強く相関しているため、現政権下で経済指標の改善が続いている以上、安全保障政策を得意とする石破氏が経済政策で広く支持を得るのは難しい。首相は現職として経済や社会保障政策で分配色を強め、世の中の幅広い層に訴えてき

小黒一正・法政大教授 首相の発言から消費税を10%に引き上げる覚悟が感じられる。社会保障費の増加を考えるとそれでも財源が不足するのは明らかだ。消費税10%以後の財源や社会保障の姿も議論を深める必要がある。社会保障の問題で首相は年金支給開始年齢の引き上げと65歳以上の継続雇用などを打ち出している。貧困高齢者が

飯田泰之・明大准教授 総裁選で論争すべき経済政策のポイントはアベノミクス、地方創生、社会保障の3つだ。首相は雇用統計など具体的な数字に基づき語っており、現職の強みがある。石破氏は抽象的な指摘が多く、突っ込み不足の印象だ。石破氏は会議の新設を打ち出しているが、それは政策とは言えない。地方創生は消費

### 構造改革 対立軸に



た。憲法改正などイデオロギ一が絡む政策でも石破氏に比べて中道寄りの主張をしている。石破氏が代替案を提示しようとするほど、左か右かいずれかに先鋭化してしまい、多くの支持を得にくい構造になっている。石破氏が対立軸をつくるとすれば、現役世代と将来世代の立ち位置だ。将来世代に寄って消費税10%以降の社会保



### 社会保障 整理して

増えて社会保障費がさらに増加する。財源に限られる中、年金、医療、介護と生活保護を全てミックスした状態で、優先順位を整理すべきだ。石破氏は国民会議を立ち上げタブーなく議論すると主張している。また改革の中身は分からないが、石破氏の方が議論の方策を示している点で少し踏み込んでいる印象だ。首相と石破氏の最大の違いは、国と地方の関係を含む「国のかたち」の将来像にあるように思う。首相は現状の中央集権体制の延長で語る一方、石破氏は地方にもう少し自由度を与えるという主張をしている。現在は地方交付税の配分基準を総務省が決めている。人口減少の状況によっては道州制も視野に権限を移譲する改革も必要かもしれない。



### 成長戦略 足りない

増税の増収分を今より多く地方自治体に回したり、中核市の予算と権限を拡充したりするといった提案をしてほしい。石破氏には社会保障制度の構造改革もうたってほしい。世代間で再分配しなくて済むよう世代ごとに収支が合う仕組みに変えるなどの提議だ。アベノミクスに足りないのは成長戦略だ。首相は農林水産業の改革や休眠預金の活用を進めたが、政策の効果が減り、実行の速度も遅くなっている。成長戦略は地味な政策の集合体だから石破氏には小粒でも多くの政策を打ち出してほしい。首相は金融緩和の出口について言及したが、急ぐべきではない。出口戦略を進めるとしても、景気に配慮した形で慎重に進めるべきだ。